

# けんぱくものしりシート

# カルタ



カルタは、<sup>むらまちじだい</sup>室町時代にポルトガルから伝わってきました。<sup>えどじだい</sup>江戸時代になると、<sup>おお</sup>多くの札の中から<sup>ふだ</sup>合う札を<sup>なか</sup>見つけだす<sup>あ</sup>遊び方が<sup>ふだ</sup>生まれ、<sup>あそ</sup>百人一首や、<sup>かた</sup>いろはカルタが、<sup>う</sup>人びとの<sup>ひやくにんいっしゆ</sup>間に<sup>あ</sup>広まりました。

## いろはカルタ

「いろは」47文字と「京」の1字を<sup>もじ</sup>頭文字にした、<sup>きやう</sup>ことわざを集めたカルタです。「<sup>じ</sup>犬も歩けば・・・」<sup>かしらもじ</sup>(下写真)で始まるので「<sup>いぬ</sup>犬ぼうカルタ」ともいわれます。



<sup>と</sup>取り札には、<sup>ふだ</sup>頭文字<sup>かしらもじ</sup>と、<sup>あ</sup>ことわざを表す<sup>あらわ</sup>絵が描かれていますよ。

<sup>よ</sup>読み札には、<sup>ふだ</sup>ことわざが<sup>か</sup>書かれていますよ。

<sup>かまくらじだい</sup>鎌倉時代の歌人、<sup>かじん</sup>藤原定家が、<sup>ふじわらさだいえ</sup>百人の歌人から<sup>ひやくにん</sup>一首ずつ<sup>かじん</sup>選んだ歌を、<sup>いっしゆ</sup>カルタにしたものです。

## おぐら 百人一首



<sup>と</sup>取り札には<sup>ふだ</sup>歌の後半、<sup>うた</sup>下の句だけ<sup>こうはん</sup>が書かれていますよ。濁<sup>く</sup>点は<sup>か</sup>つけないんだ。



<sup>よ</sup>読み札には、<sup>ふだ</sup>歌人の<sup>かじん</sup>姿<sup>すがた</sup>と、<sup>うた</sup>歌が<sup>か</sup>書かれていますよ。

<sup>よ</sup>読み方は、<sup>かた</sup>前半の<sup>ぜんはん</sup>上の句<sup>かみ</sup>を<sup>く</sup>読んだ<sup>あ</sup>後、<sup>こうはん</sup>後半の<sup>しも</sup>下の句<sup>く</sup>を<sup>かいつづ</sup>2回<sup>よ</sup>続けて読むんだ。

カルタの遊び方を紹介します。家族やお友達と一緒に遊んでみましょう！

**遊び方① ちらし取り**

～基本的な遊び方～

取り札をばらばらにちらして並べます。読む人は読み札をきって1枚ずつ読みます。取る人は、読みあげられた札をさがしてとります。(いろはカルタでは、まちがった札をとると、お手つきで1回休みです。) 取った札の多い人が勝ちです！



**遊び方② 源平合戦**

～向かい合って2組に分かれて遊ぼう！～

読む人は、取り札を2組に半分ずつ配ります。各組は自分たちの前に、取り札を横に段(百人一首は3段)に並べ、読みあげられた札をとります。相手の札をとったら、自分たちの取り札を1枚、相手に送ります。お手つきをしたら相手から1枚札をもらい、自分たちの前に並べます。早く札がなくなった方が勝ちです！



**遊び方③ 坊主めくり**

～百人一首の読み札を使って遊ぼう！～

まん中に読み札をうら返して重ねておきます。順番を決め、1人ずつその札をめくりまします。めくった札が坊主(僧)以外なら札をもらいます。坊主がでたら、持っている札を全てまん中にだします。その札は、次に姫(女性の札)をだした人が全てもらいます。持っている札の多い人が勝ちです！ (\*いろいろなルールがあります。)



イラスト：上村美賀子

参考にした本『カルタ』文溪社 2006年

『大図解 日本の伝承 遊びコツのこつ 6巻 簡単にできる室内遊び② 小道具編』リブリオ出版 2005年 他

来月(1月)の  
けんぱくものしりシートは  
地質-2だよ！  
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/